これからも続けていく「樹との対話」

諸輪在住 近藤（こんどう） 信弘（のぶひろ）さん

今回は、令和3年2月に行われた「第95回 国風盆栽展」に初出展で見事入選され、町の式典で風格を出すのに欠かせない盆栽もご提供いただいている、近藤信弘さん（以下「近藤」表記）にお話を伺いました。

――近藤さんが盆栽を始められた"きっかけ"は何でしょうか？

近藤　会社で週休二日制が始まり、休みのうち1日は趣味をしたいと思っていたところ、上司から盆栽教室へ誘われたのが始まりです。その頃から、もう50年経ちますね。

――50年間、盆栽を育て続けていらっしゃるのですね。お庭に沢山盆栽がございますが、毎日どのようにお手入れをさせているのですか？

近藤　全部で大体300鉢くらいありますが、その一つ一つに毎朝「おはよう」と声をかけるところから始めていますね。「調子はどうかな」と木と対話し、水をあげています。木のバランスを良くするために、場所やタイミングを考えながら剪定をしています。

――盆栽を見るときのポイントなどございますか？

近藤　盆栽は木だけではなく、鉢と木がいかに調和しているかが重要で、そこが難しいですね。鉢の作者まで問われることがあるくらい、鉢も大切で、こだわりが必要なところです。

――国風盆栽展へは今回初めての出展と伺いましたが、これまで、なぜ出展されなかったのですか？

近藤　国風盆栽展は、日本で最もレベルと格調の高い盆栽展で、自分が出展するのはおこがましいと思っていたのですが、今回、日本盆栽協会の岡崎支部の友人から、「ぜひ挑戦してみては」と勧められたので、出展することにしました。

――最後に、近藤さんにとって、盆栽の魅力とはなんですか？

近藤　盆栽は、単に自然を真似て作っては魅力的なものになりません。「自然の厳しい環境の中に立つ木」や「松島のような美しい海に浮かぶ島」など、自分の思い描いた景色を、鉢の中に再現し、愛でていくことが魅力ではないかなと思います。

――近藤さん、小さな鉢の中に壮大な世界観が詰まった盆栽と共に、素敵なお話をしていただき、ありがとうございました。近藤さんより、今回の入選作品が掲載されている「第95回記念帖」を町図書館に寄贈していただきましたので、ぜひご覧ください。